

第128回労働政策フォーラム (2023年10月19日)

外国ルーツ世帯の労働と子どもの生活 ーワーキングプア世帯の子どもの居場所ー

外国ルーツ班 B04

山本直子

東洋英和女学院大学 専任講師

東京都立大学 子ども・若者貧困研究センター客員研究員

分析に利用するデータの詳細

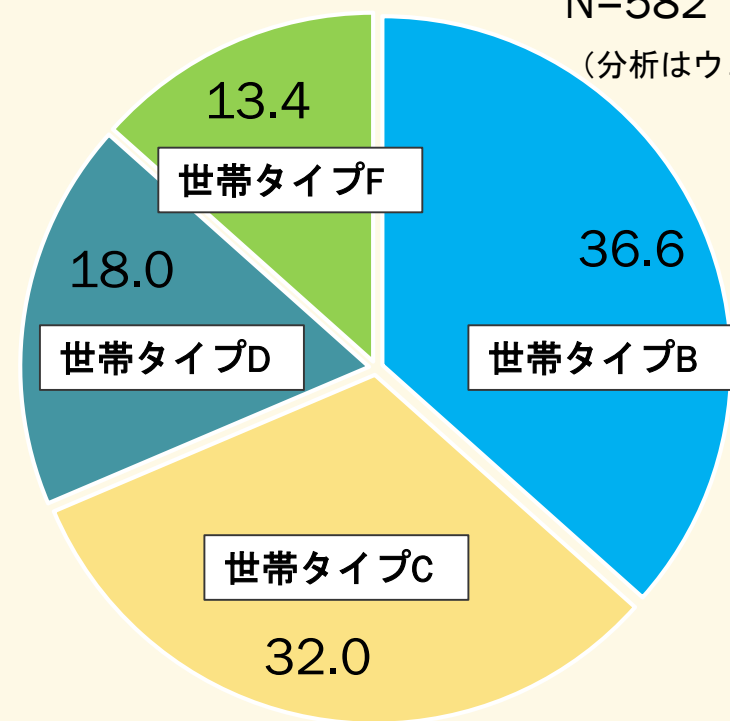
自治体名	東京都 (墨田区・豊島区・ 日野市・調布市)	松戸市	世田谷区	狛江市	中野区	計
調査方法	郵送 (一部ウェブ回答)	学校経由 (公立のみ)	郵送	学校経由 (私立学校に通う 児童には郵送)	郵送 (一部ウェブ回答)	
調査時期	2016年8~9月	2017年9月	2018年6月~7月	2018年6月~7月	2019年8月~9月	
N (小5) (回収率)	2824 (44.9%)	3405 (85.4%)	3129 (45.2%)	420 (69.7%)	337 (26.9%)	10,115
外国ルーツの子ども (割合)	95 (3.4%)	138 (4.1%)	91 (2.9%)	12 (2.9%)	21 (6.2%)	357 (3.5%)
N (中2) (回収率)	2865 (42.2%)	3115 (78.0%)	2598 (39.9%)	308 (51.0%)	312 (24.9%)	9,198
外国ルーツの子ども (割合)	107 (3.7%)	75 (2.4%)	80 (3.1%)	12 (3.9%)	12 (3.8%)	286 (3.1%)

外国ルーツの世帯の割合

世帯タイプ	両親の国籍の組み合わせ		%
	母の国籍	父の国籍	
A	(日本人母・日本人父)		89.3
B	(外国人母・日本人父)		1.2
C	(日本人母・外国人父)		1.0
D	(外国人母・外国人父)		0.6
E	(日本人母・いない)		7.5
F	(外国人母・いない)		0.4
計	N=18,453		100

外国ルーツの家庭の世帯タイプ内訳

N=582
(分析はウェイト付)



- B (外国人母・日本人父)
- C (日本人母・外国人父)
- D (外国人母・外国人父)
- F (外国人母・いない)

低所得

等価世帯所得が厚生労働省「国民生活基礎調査」から算出される基準未満の世帯

<低所得基準> (2019年)
世帯所得の中央値437万円÷
√平均世帯人数(2.39人)×50%
=141.3万円

家計のひっ迫

以下の7項目に関して、過去1年間に買えなかった経験、払えなかった経験が1つ以上あると回答した世帯

- ①食料
- ②衣類
- ③電話料金
- ④電気料金
- ⑤ガス料金
- ⑥水道料金
- ⑦家賃

子どもの体験や所有物の欠如

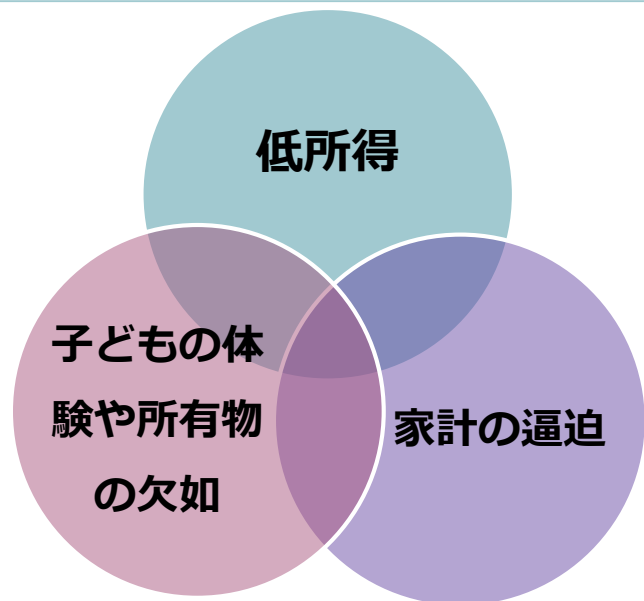
子どもの体験や所有物などに関する15項目のうち、経済的な理由で、与えられていないとする項目が3つ以上あると回答した世帯

- ①毎月お小遣いを渡す
- ②毎年新しい洋服・靴を買う
- ③習い事（音楽、スポーツ、習字等）に通わせる
- ④学習塾に通わせる
- ⑤1年に1回くらい家族旅行に行く
- ⑥クリスマスのプレゼントをあげる
- ⑦正月のお年玉をあげる
- ⑧子どもの年齢に合った本
- ⑨子どもが自宅で宿題をすることができる場所
- ⑩子ども用のスポーツ用品・おもちゃ
- ⑪海水浴に行く
- ⑫博物館・科学館・美術館などに行く
- ⑬キャンプやバーベキューに行く
- ⑭スポーツ観戦や劇場に行く
- ⑮遊園地やテーマパークに行く

いずれも該当しない⇒ 一般層
1つが該当 ⇒ 周辺層
2つ以上が該当 ⇒ 困窮層



生活困難層

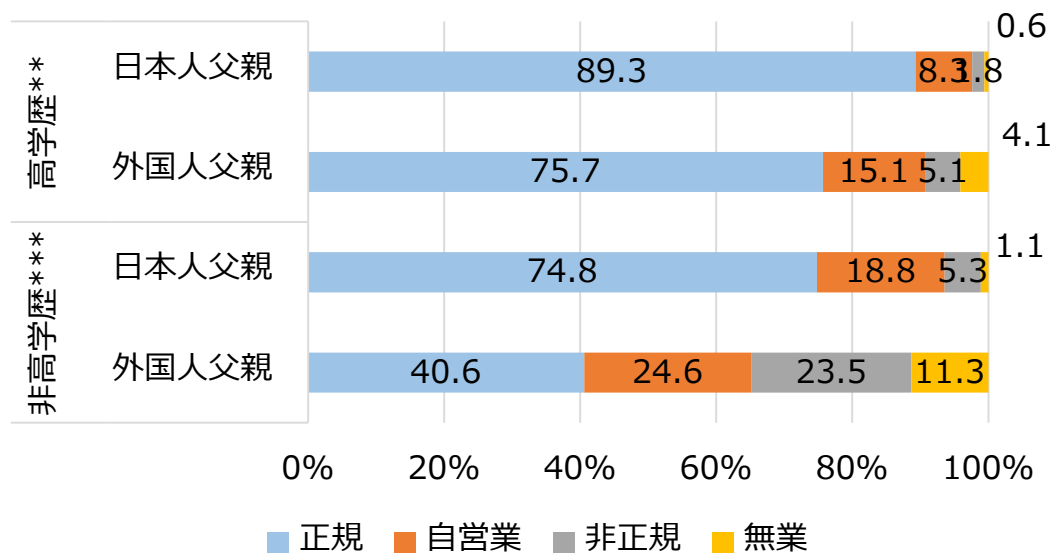




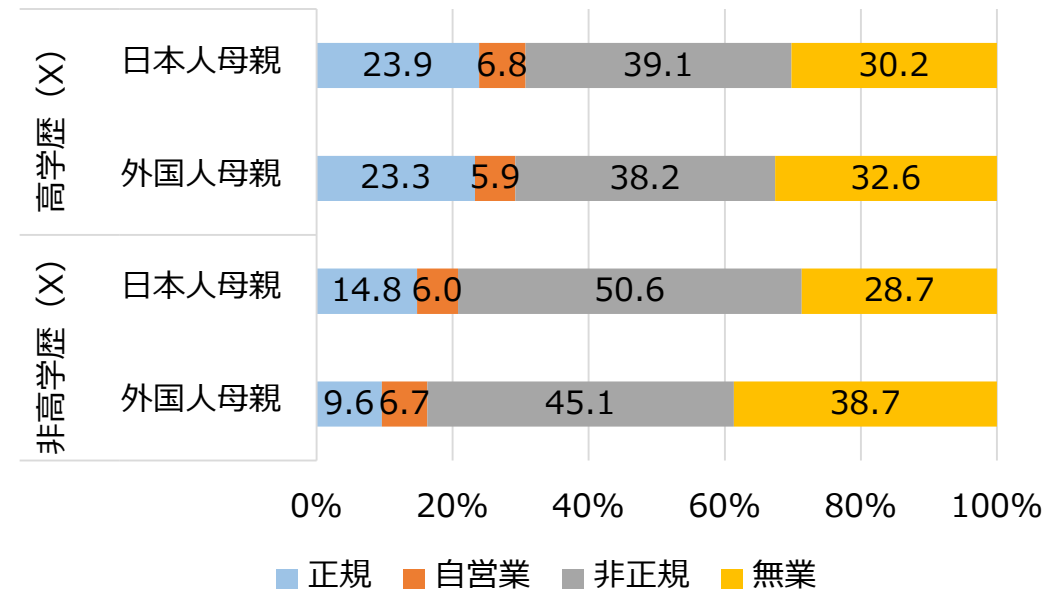
外国籍の父母の就労状況

外国籍の父母の学歴別就労形態

父親の就労形態（学歴別）

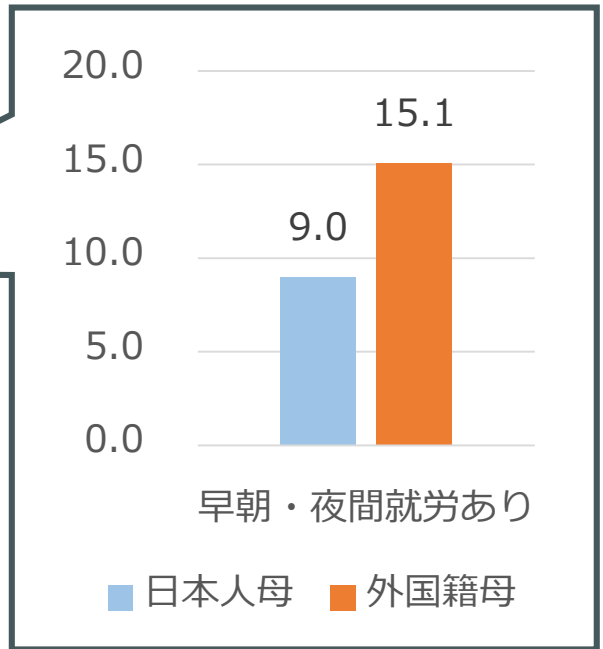
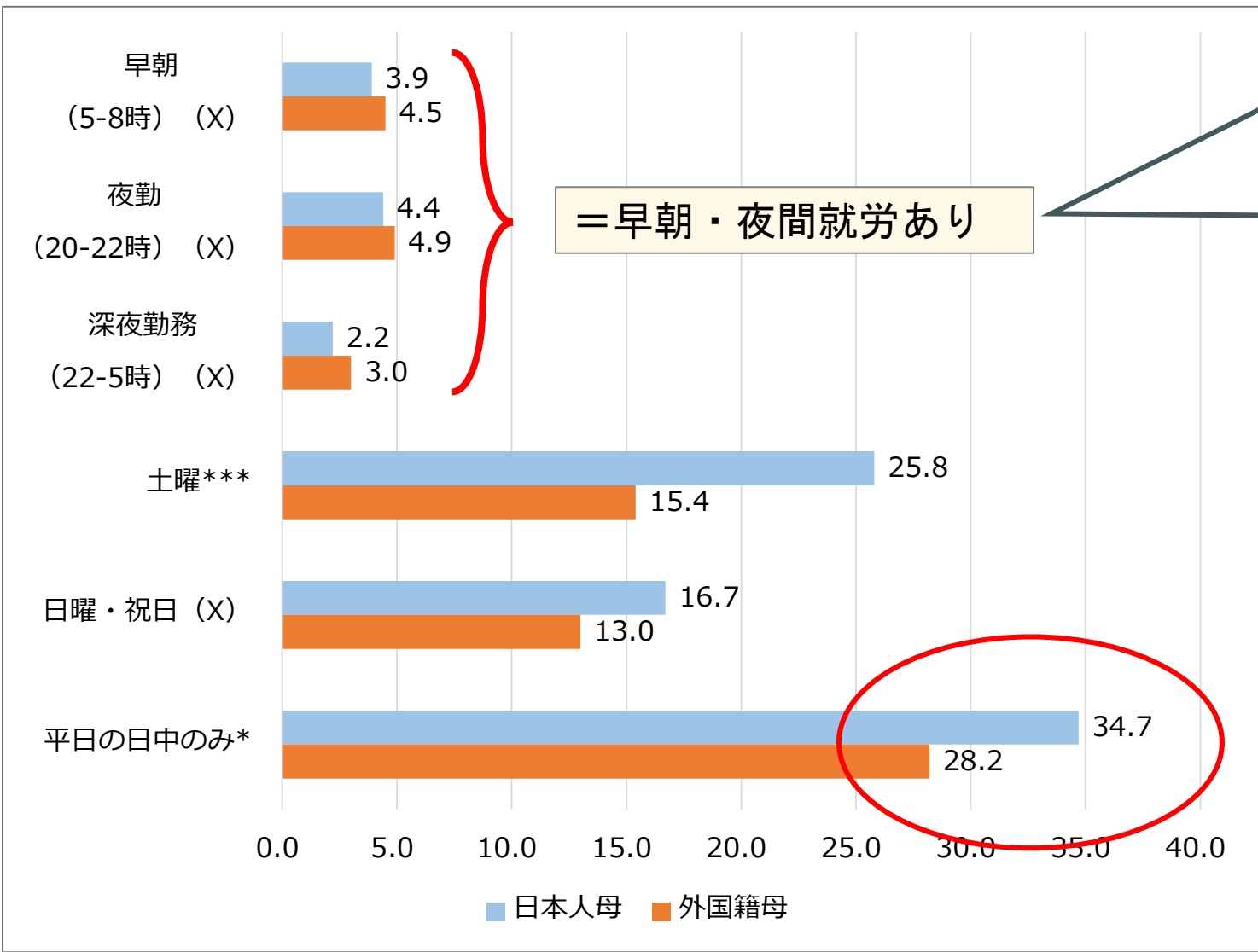


母親の就労形態（学歴別）



父親・・・学齢にかかわらず日本国籍の父親に比べて**外国籍の父親は正規職に就きにくい**傾向がみられる。特に非高学歴の父親では正規職の割合は著しく低く、非正規職が多い。
 母親・・・学歴による就労状況に有意差はみられない。

母親の就労時間帯（国籍別）



平日の日中のみの就労であると答えている母親の割合は、日本人の母親では34.7%であるのに対して、外国籍では28.2%と低い。

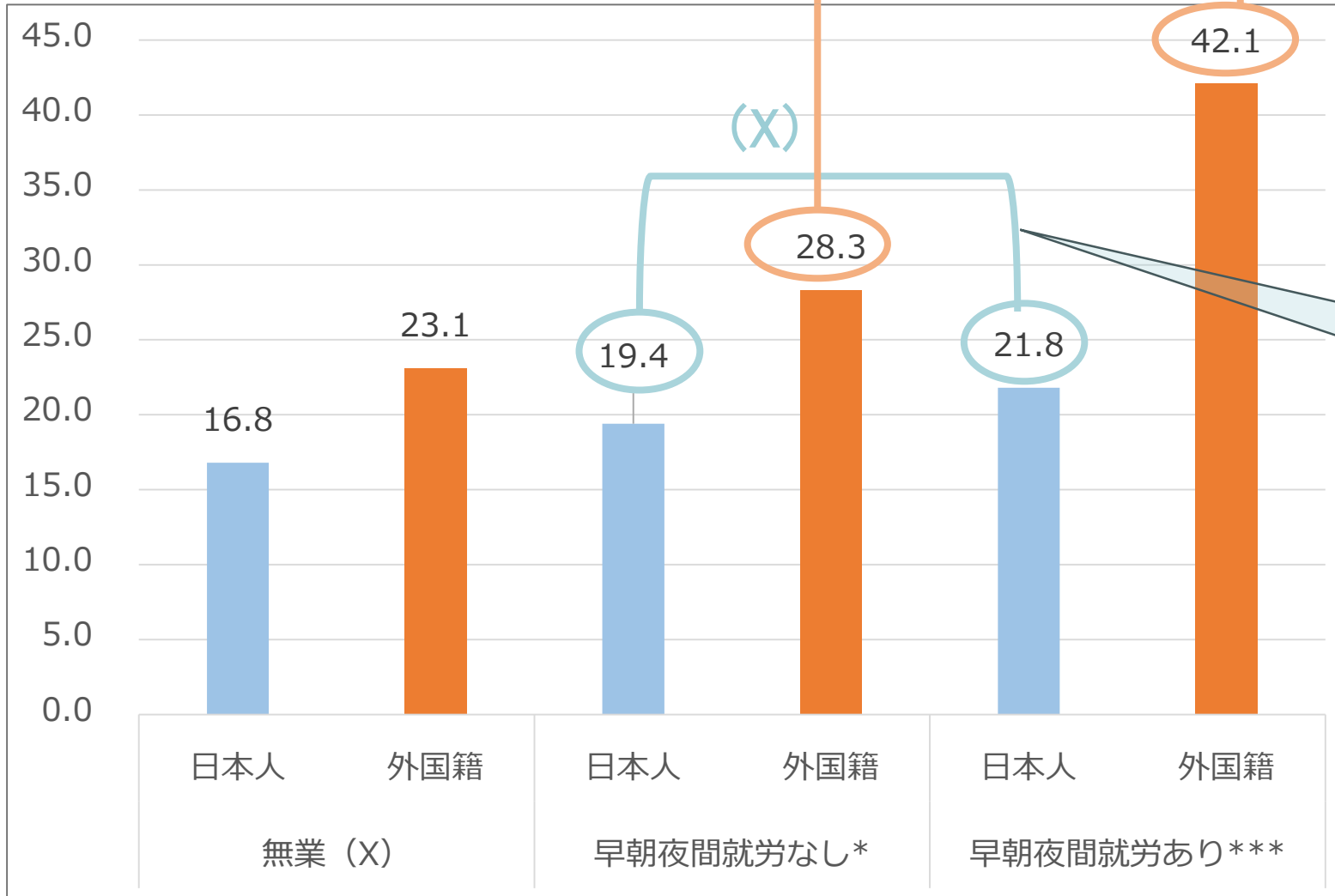
外国籍の母親は、早朝や夜勤、深夜に働いている割合が高い。



親の就労状況が
子どもの生活に与える影響

就労時間帯と親子の会話

- 親との会話を「まったくしない」と答えた子どもの割合
- (母親の就労状況別)



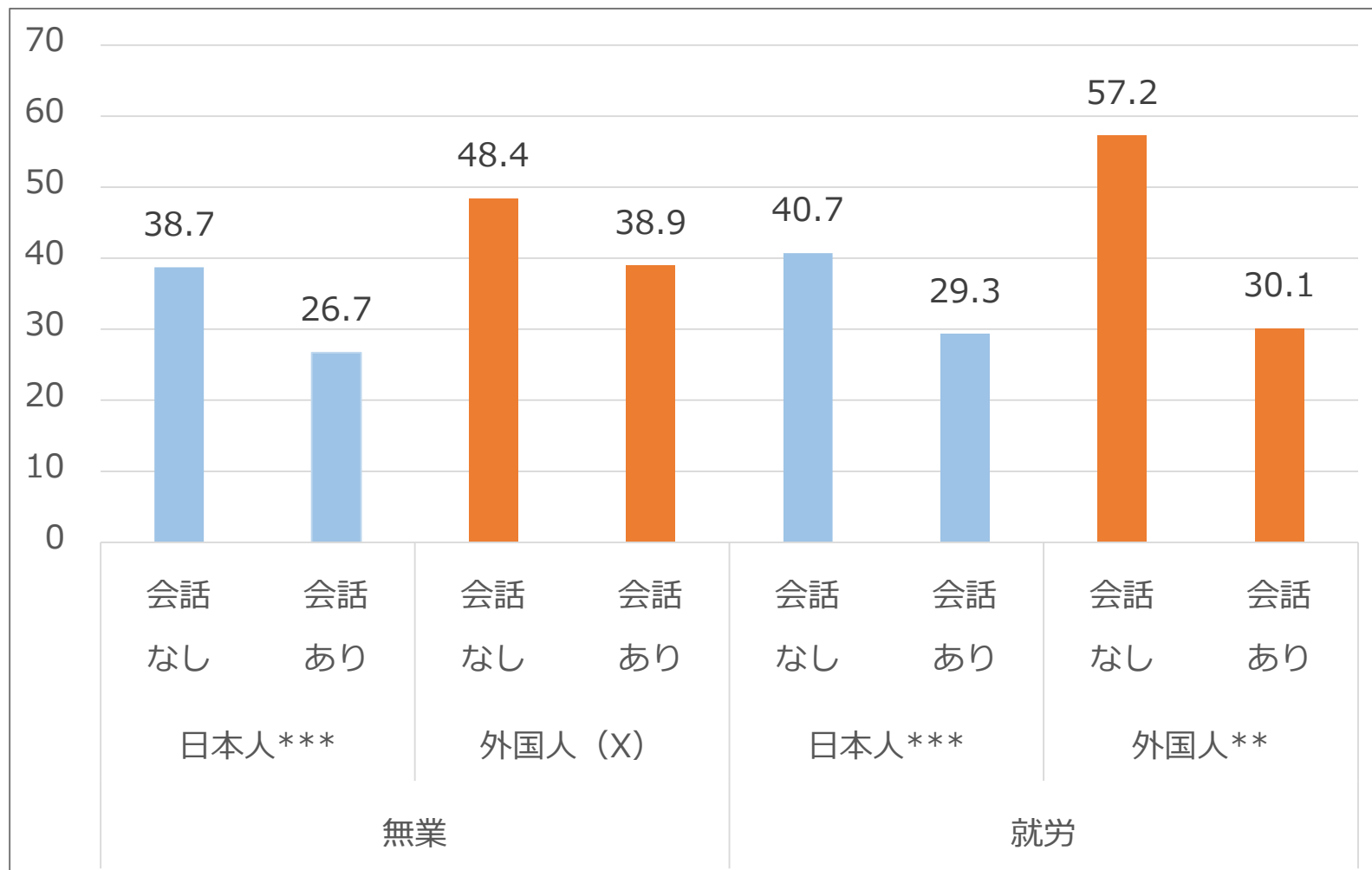
外国籍の母親では、早朝夜間就労と親子間会話の有無には統計的な有意差が見られ、早朝夜間に働いている世帯では、子どもが親と全く会話をしていないと答える割合が高かった。

本データでは、早朝夜間に働いている世帯では、4割の子どもが親子間での会話がまったくないと答えていた。

日本人の母親では、早朝夜間就労と親子間会話の有無は有意差は見られなかった。

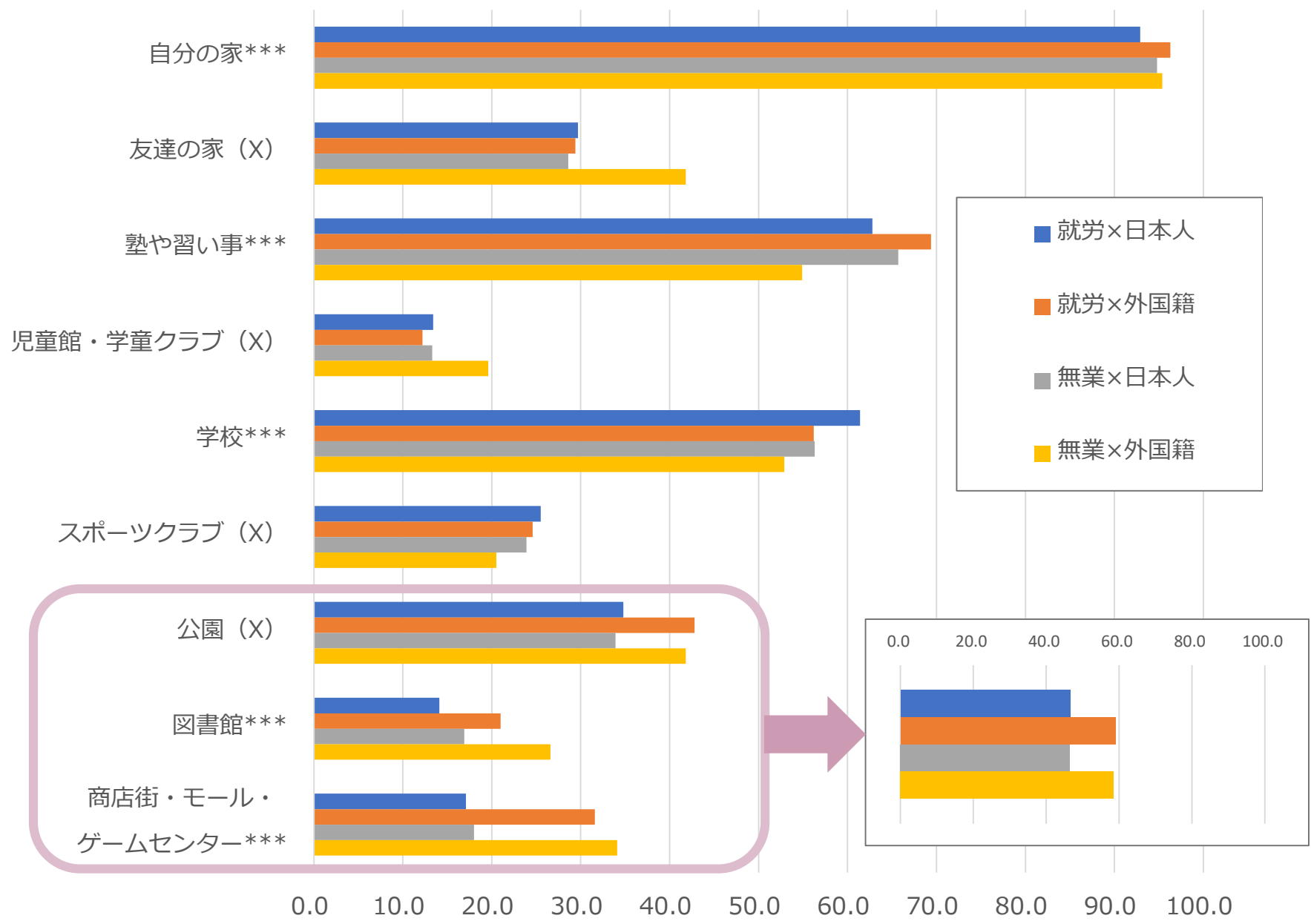
親子の会話と子どもの孤独感（就労・国籍）

■ 「孤独を感じる」と答えた子どもの割合



就労しているかどうかは直接的に子どもの孤独感に影響を与えているのではなく、就労していることにより親子間の会話がないということが、子どもの孤独感に影響を与えていることが考えられる。

平日放課後の居場所（母親の就労状況×国籍）

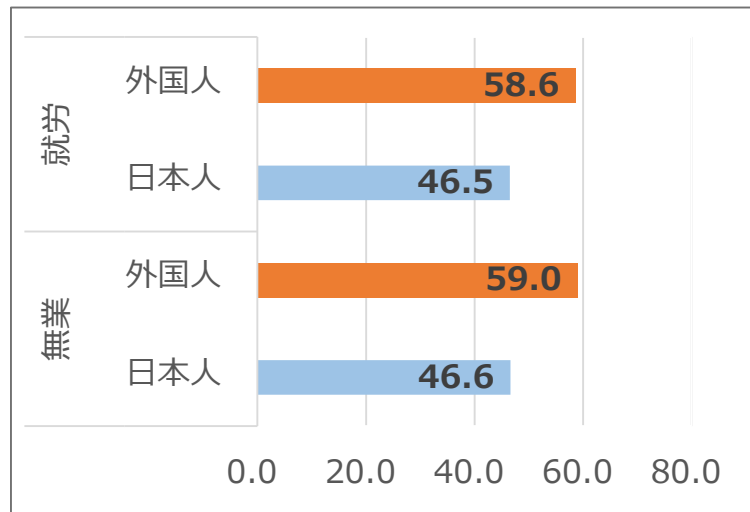


外国ルーツの子どもは、公園 (X)、図書館、商店街やモール、ゲームセンターなどを利用する割合が、日本人世帯の子どもよりも高い。

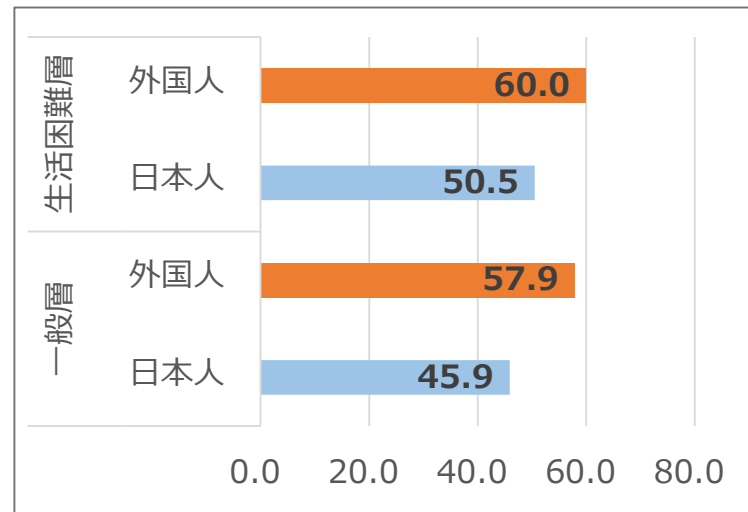
就労の有無に関係なく、外国ルーツの子どもでこれらの施設の利用率が高い。

無料・登録不要の居場所利用

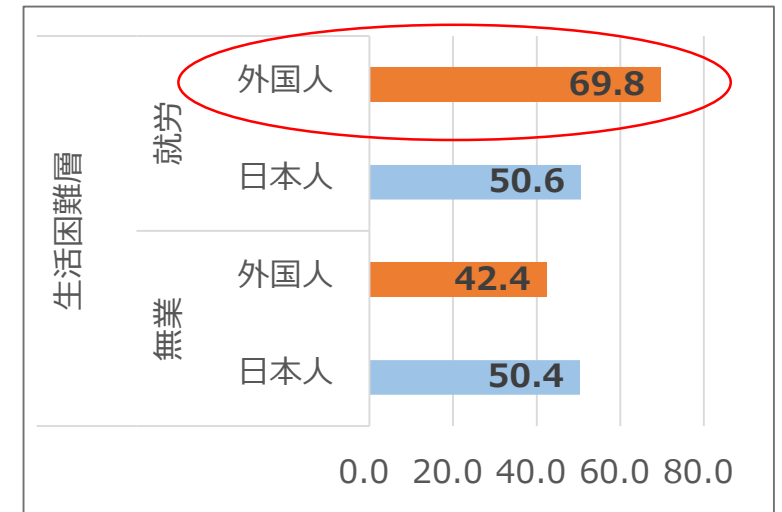
■ 就労×国籍



■ 生活困難×国籍



■ 就労×生活困難×国籍



母親が就労している×生活困難層である×外国籍である という3つの条件が重なる世帯の子どもが、公園、図書館、ショッピングモールやゲームセンターなどを居場所としている傾向がみられる。

まとめ

親の就労

外国籍の父母の就労⇒就労時間帯が早朝や夜間である割合が高い

子どもの状況

母親が外国籍×就労している世帯

- ・親子間の会話がなない・少ない傾向がある。
- ・会話が少ない・ないと、子どもが孤独を感じやすい
- ・特に生活困難層で、無料・登録不要の居場所の利用率が高い。

親が外国籍であるということのみでなく、労働環境や世帯の貧困の状況をあわせてみると、特別のニーズがある様子がみえてくるのではないか。



ありがとう ございました。

外国にルーツをもつ子どもの貧困に関する分析

山本直子

yamamoto.naoko@toyoeiwa.ac.jp